

HM6

全方向回転ホイップ機構付

DIAMOND
ANTENNA

取扱説明書

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。また、必要なときに読めるようにこの取扱説明書は、大切に保管してください。

このアンテナはアマチュア無線用です。指定された周波数以外では送信しないでください。

注意

事故を防ぐために、以下の注意事項をお守りください。

- ①ネジ・ビス類は、振動などでゆるむことがあります。お使いになる前に確認し、ゆるんでいるようなら締めなおしてください。
- ②強い衝撃を受けるとアンテナが破損し、落下して大変危険です。走行のときは、枝などの障害物に十分注意してください。
- ③ディーゼル車などの激しい振動により、アンテナが破損することがあります。できるだけ振動の少ないところを選んでアンテナを取り付けてください。
- ④送信中のアンテナに触ると感電することがあります。停車中に運用するときは、アンテナの近くに人がいないことを確認してください。
- ⑤アンテナを倒したまま走行、または公道で駐停車しないでください。事故の原因になります。
- ⑥車の巾・全長を越えない範囲で、人体に触れにくいところに取り付けてください。
- ⑦使用する前にはアンテナの周波数調整を行ってください。未調整のまま使用すると、無線機が故障する原因となります。
- ⑧雷が鳴り出したら、アンテナや同軸ケーブルには絶対手を触れないでください。感電の原因となります。
- ⑨アンテナを固定する場所は十分強度のあるところを選んでください。倒れたりして車体を破損することがあります。

特長

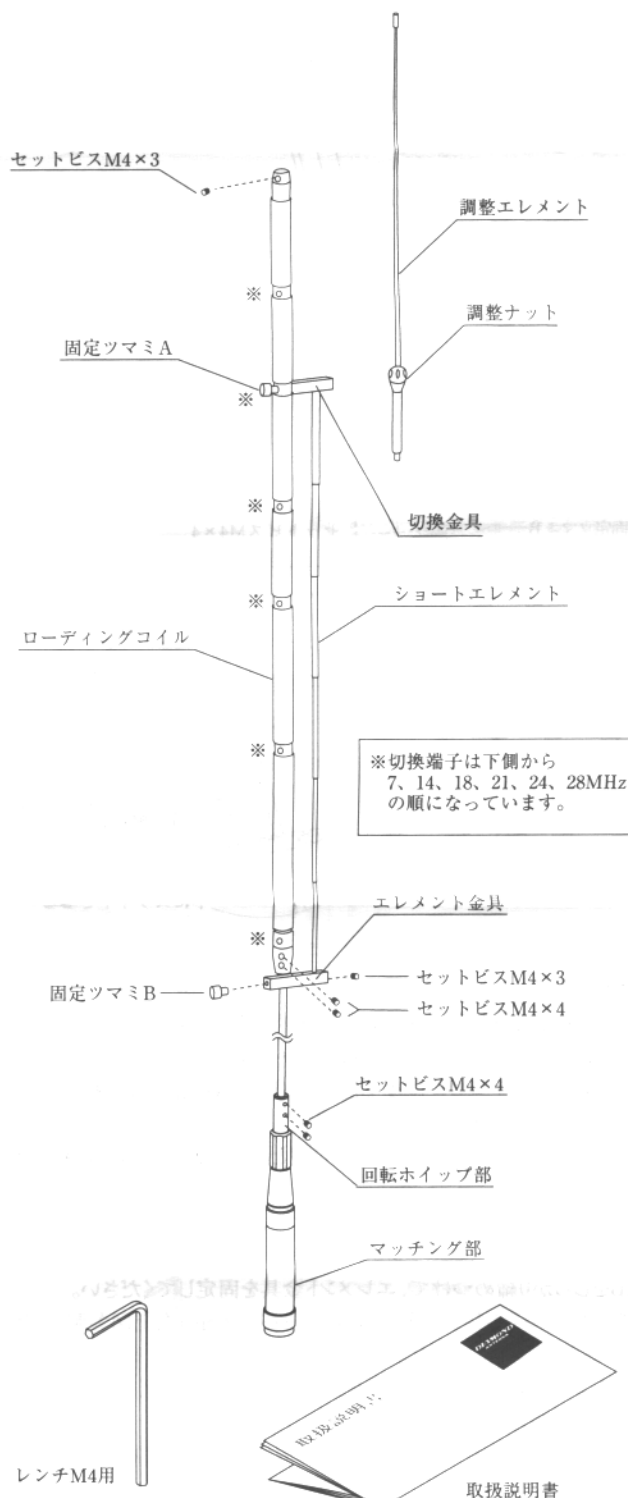
- ①周波数切換端子によりHF帯6バンド(7/14/18/21/24/28MHz帯)が運用できる効率の良いセンターローディングタイプのモービルアンテナです。
- ②周波数の微調整は上部のスライド式調整エレメントにより簡単に可変することができます。
- ③全方向回転ホイップ機構付きのため、車庫入れ時のめんどうなアンテナ取り外しが不要です。

設置場所

このアンテナは車載専用設計されています。ベランダなどの接地条件の異なる場所に設置した場合には、SWRが下がらないことがありますのでおすすめでできません。トランクリッドやルーフサイドなどへ取り付けてください。

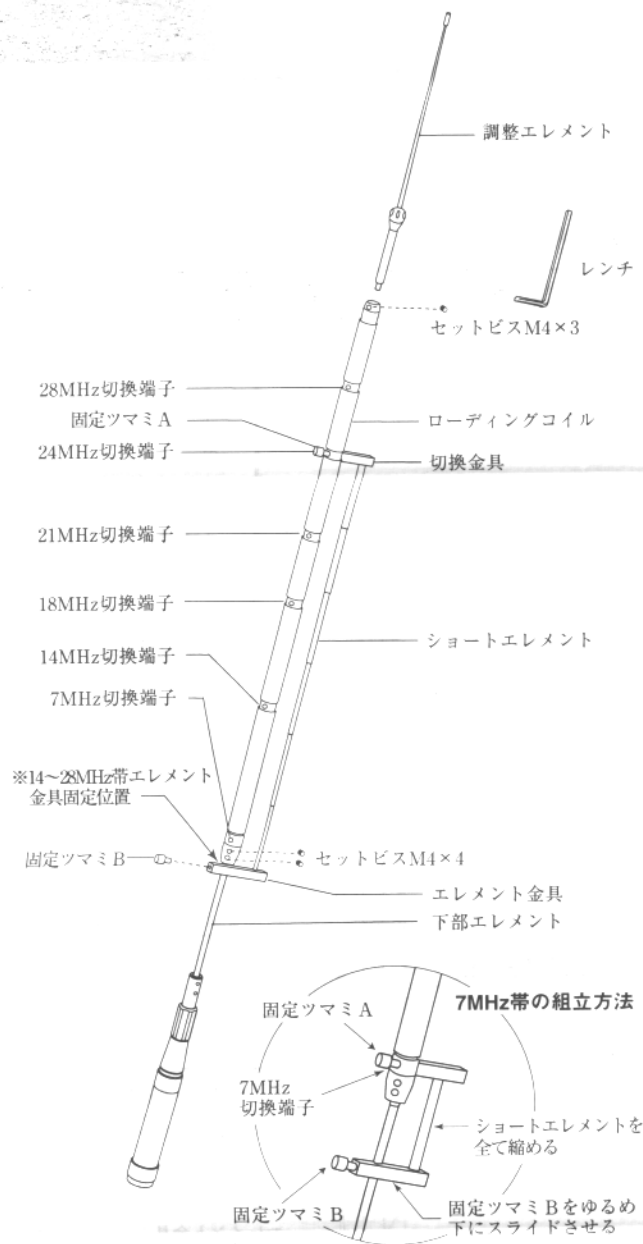
部品構成

部品が全部揃っていることを確認してください。



●組立方法

- ①調整エレメントをローディングコイル上部にネジ込み、セットビスでしっかりと固定します。
- ②下部エレメントは、ローディングコイル部に取り付けてありますが、ネジなどがゆるんでいるようならご使用前に締めなおしてください。



●調整方法

- ①運用される周波数帯の切換端子に切換金具を移動して、固定ツマミAにてしっかりと固定してください(14～28MHz帯)。尚、エレメント金具の位置は下部エレメントの最上部(図中指示あり)に固定してください。
- ※7MHz帯への切換方法は、他のバンドと異なります。始めに固定ツマミBをゆるめエレメント金具をフリーの状態にします。切換金具を7MHz切換端子に移動して、固定ツマミAにてしっかりと固定してください。最後に、ショートエレメントを一番縮めた状態にしてから固定ツマミBをしっかりと締めつけて、エレメント金具を固定してください。
- ②調整エレメントの長さを、標準エレメント長の60cm(右上図参照)に合わせSWRを確認してください。SWRの微調整はこのエレメントの出し入れにて行います。エレメントを伸ばすと周波数は低くなり、縮めると周波数は高く変化します。
- ③各バンドごとのエレメント1cm当たりの周波数変化量は右上の表を参照ください。

標準エレメント長位置



※出荷時は上記寸法に合わせてあります。調整後は、調整ナットをしっかりと締め付けてください。

調整上の注意

- ・送信中はアンテナに手を触れないでください。感電することがあります。
- ・H M 6 など、H F のアンテナは取り付け場所によってS W Rが変わります。必ず実際に運用する状態で調整を行ってください。
- ・まわりに障害物や電線がなく、他の車や歩行者の通行の妨げにならないところで行ってください。
- ・橋の上や立体駐車場など、車の下に空間があるところでは、対大地間容量が不足して正しい調整ができないことがあります。
- ・他局に妨害を与えないように「少ない電力で短時間」の調整を心がけてください。

エレメント1cm当たりの周波数変化量

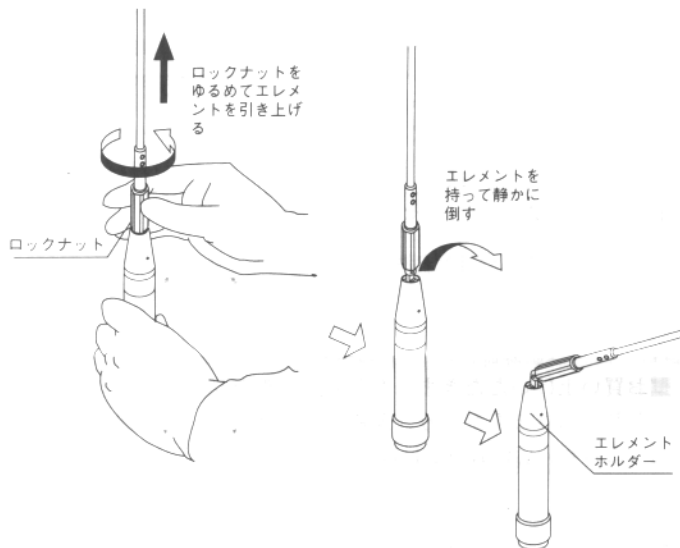
周波数	周波数変化量
7MHz	約25kHz
14MHz	約60kHz
18MHz	約110kHz
21MHz	約110kHz
24MHz	約115kHz
28MHz	約135kHz

⚠ 注意

- ・基台と固定ネジが電氣的に直接車体に接触するようにしてください。基台と車体が絶縁しているとS W R が下がらないことがあります。
- ・ルーフレールやキャリア、バックミラーのステーなど基台の取付位置から車体の距離が離れているところではS W R が下がらないことがあります。
- ・基台を取り付けたところからサビが発生することがありますので、あらかじめ塗装のはがれたところにサビ止めを塗っておいてください。
- ・同軸ケーブルを車内に引き込んだところから水が浸水することがありますので、注意してください。
- ・運転の支障にならないように、同軸ケーブルを配線してください。
- ・アンテナや基台、同軸ケーブルを車の他の配線や端子ボックスの近くに取り付けしないでください。接触して火災の原因となります。

●回転ホイップについて

- ①倒すときは、ロックナットをゆるめ、アンテナを引き上げて折り曲げます。
- ②起こすときはアンテナを垂直に立て、ショートエレメントの位置を後方に調整してロックナットを締め付けてください。



⚠ 注意

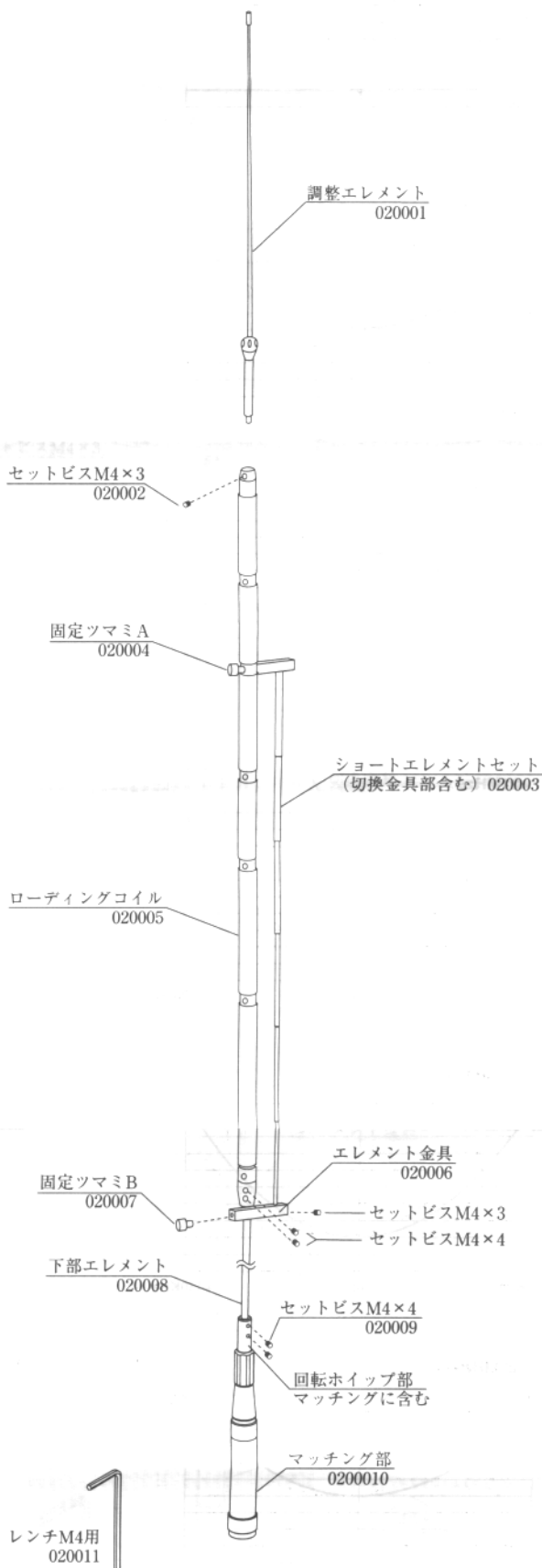
- ・倒したアンテナは自由に回転しますので、倒したままでの走行はおやめください。事故の原因になります。
- ・アンテナを倒したときに、アンテナの先端が車体の外に出る場合には倒すのをやめ、アンテナを取り外してください。事故の原因となります。

注意

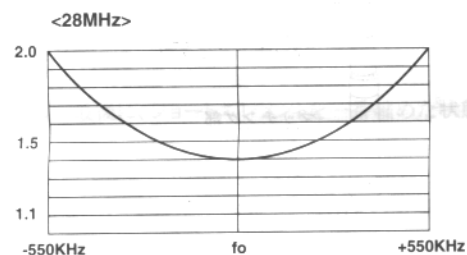
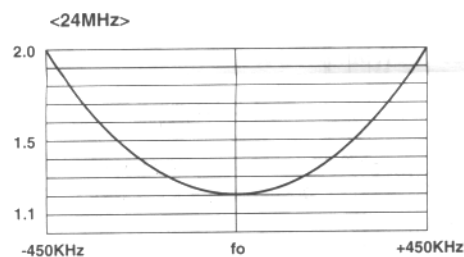
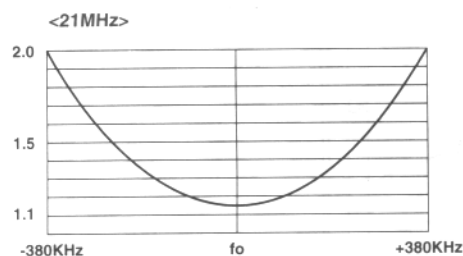
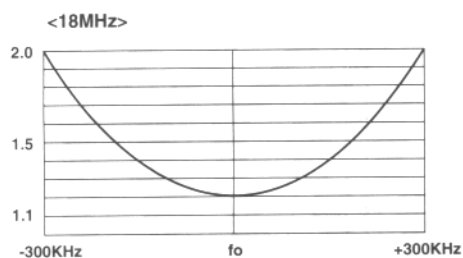
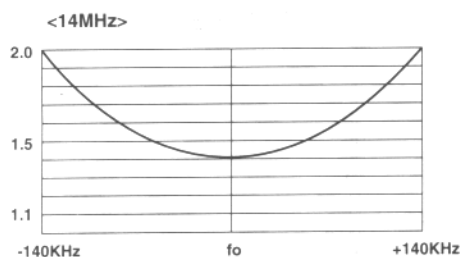
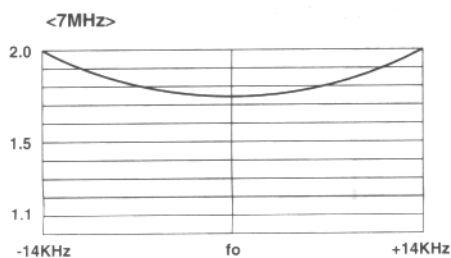
- ・HM6は車のボディを利用した接地型のアンテナです。マンション、アパートなどの手摺では接地条件が異なるため使用できません。
- ・ローディングコイルを覆っているゴムチューブは、はがしたりキズを付けたりしないでください。故障の原因となります。
- ・回転ホイップの折り曲げ部やローディングコイルを覆っているチューブなどに、凍結防止剤などの塩分が含まれた汚れが多量に付着したまま送信しないでください。アンテナの性能が低下し、無線機が故障する原因となります。
- ・定期的に汚れをきれいに拭き取ってください。ただしシンナーやベンジンなどでは拭かないでください。汚れのひどいときは、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。

●外観図(補修部品番号)

万一エレメントの一部が破損した場合などは、図の中の補修部品番号で販売店にお申し付けください。



●VSWR表



●送信空中線の形式

アマチュア局の免許申請書類の空中線形式には28MHz以外は「垂直型」、28MHzは「単一型」とご記入ください。

●規格

周波数: 7/14/18/21/24/28MHz帯

耐入力: 220W(SSB) 14/18/21/24/28MHz帯、
120W(SSB) 7MHz帯

インピーダンス: 50Ω

V S W R: 1.5以下(18/21/24/28MHz帯)共振周波数において
2.0以下(7/14MHz帯)共振周波数において

全長: 1.83m

重量: 710g

接続: M形

形式: 1/4λセンターローディング

■お買い上げいただきました製品は厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などによる破損がありましたら販売店にお申し付けください。

■アンテナの仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

2002年2月 初版発行

© 第一電波工業株式会社

Printed in Japan